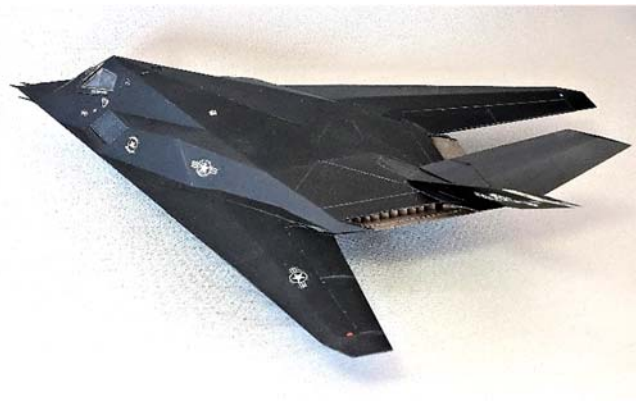
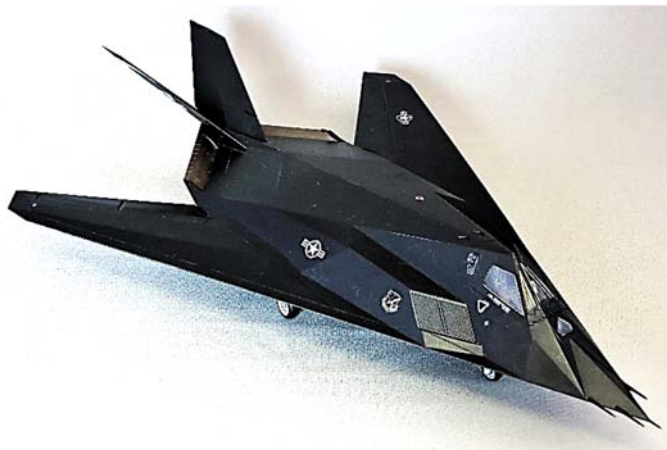


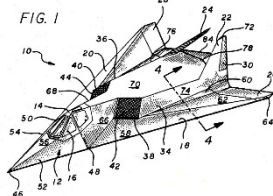
ワケ カタチには理由がある(117)

Shape follows Function
& Taste

～ロッキードF-117

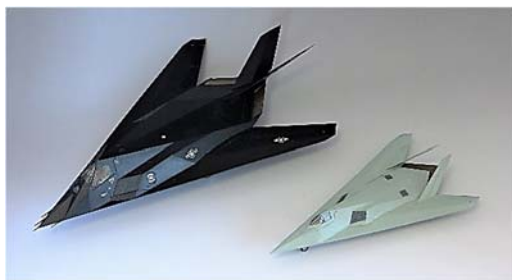


(架空のステルス機 F-19 と→)



(←プロトタイプのコピー・ブルーと。

ステルス戦闘機の米国特許 5250950
の図↑はコピー・ブルーであることが
わかる)



ステルス戦闘機のご先祖 F-117 です。1981 年に初飛行していますが、その存在は長年隠されて、航空ファンの憶測を呼んでいました。F-18 と F-20 との間が欠番になっていたため、F-19 がそれに違いないということでイタリアから「シャモジ」のような形の架空機がリリースされて世界的に大ヒットしました。しかし、1988 年に公開された一枚の写真は模型とは全く似ていないもので、米国国防省としては長年欺瞞しつづけた状況に、してやったりということだったでしょう。詳細は、ロッキード社の副社長を務めたベン・リッチの著書『ステルス戦闘機(スキャンワークス)』(講談社)に詳しいですが、存在の秘匿を続ける努力たるやとても大きいものだったということがわかります。なお、模型を作ってしまうことは、すごく大きい機体だ、ということです。速度もマッハも超えないことを考えると、戦闘機というより(精密爆撃を行う)爆撃機という印象です。

(国防省により公開された写真→
上の斜め前方からの写真と比較すると、全くのフェイク写真ではないことがわかる。)



【模型について】

日本のハセガワ(Hasegawa)の 1/72 のインジェクションキットです。ハセガワは上記の不鮮明な写真から旧キットを作りましたが後日形状が違うことがわかり、同キットリベンジ版としてリリースしました。なお、コピー・ブルーは香港のアニグランのレジンキットです。(中川裕幸 2025 年 4 月)